

# 一般向け情報メディアにおける「リスク」の多義性についての考察

リスク工学グループ演習 1 班

川嶋優旗 石川諒 木本直也 Abdulrahman Joubi

アドバイザー教員 梅本通孝

## 1. 背景・目的

### 1.1. 背景

#### (1)はじめに

私達は、日常の学習の中だけではなく、しばしばリスクという言葉が日常生活で目にする。リスクは現代では一般的な単語であり、人との会話の中だけではなく、雑誌やテレビといったメディアでも当たり前のように登場している。

「リスク学辞典」<sup>1)</sup>によれば、最も古典的な定義として「生命の安全や健康、資産や環境に、危険や傷害など望ましくない事象を発生させる確率、ないし期待損失」(p13)とされている。しかしながら、私達が普段目にするリスクという言葉は、本当にこの定義に則っているのだろうかと考えた時に、例えば twitter<sup>2)</sup>において「被害者が出てからじゃないとダメってどれだけリスク放置なの…(@1moresmartwoman)より一部抜粋」というような記述が為されているのを発見した。あくまで一個人の発信に過ぎないが、これはリスク学辞典としての定義とは違う、言わば誤用であると言えるのではないだろうか。リスク工学を専攻としている私達が、リスクというものの定義を改めて明らかにし、また一般に使用されているリスクには専門的な定義から外れたものがあるのではないかと考えた。

#### (2)既往研究の整理－「リスク」の定義

先述の「リスク学辞典」<sup>1)</sup>において、一般的な定義として「確率と、発生した損失や傷害の大きさの積で表現するもの」(p13)即ち、ある事象が発生する確率と、その程度の大きさを掛け合わせたものとして定義されている。一方で、「分野によれば(中略)『望ましくない』という価値的表現を捨てて、事象の不確定な『変化』を指してリスクと定義することもある」(p13)とあり、「あらゆる領域を覆う『標準語』的な定義は今のところ無い」(p13)が、「共通して認められるのは、リスクの本質は不確実性」(p13)であるということである。即ち複数の定義を内包していることが示唆されている。

また、「The Review of the Definition of Risk」<sup>3)</sup>には 12 のリスクの定義が記載されており、列挙すると

- I. 望ましくない結果の重みと確率の尺度
- II. シナリオの集合、そのシナリオの確率、およびシナリオの結果の3つ組
- III. 確立と重大さの積に等しい
- IV. 結果、確率、重大性、因果的シナリオ、影響を受けた母集団の組み合わせ
- V. 人的価値の何らかが危機にさらされ、その結果が不確実である状況や出来事のこと
- VI. ある事故の影響や発生する可能性を表

現したもの

- VII. ある結果の発生確率と範囲の組み合わせ
- VIII. 人的価値の何らかに関連した、ある出来事や活動の不確実な結果のこと
- IX. 予想される損害
- X. 事故による、従業員の健康被害の発生可能性
- XI. 人的価値に関連した活動の出来事や結果の不確実性や重大性
- XII. 目的に対する不確実性の影響のこととあった。

これら 2 つの文献の定義として共通する概念として、リスクの定義は大きく①結果の不確実性について言及したもの、②事象の発生確率の不確実性に言及したもの、③結果と確率、のどちらの不確実性も内包しているもの、の 3 つの定義に分類することが出来るのではないかと考えた。

## 1.2. 目的

以上より、リスクという言葉は、専門的にも定義が広義的で分野横断的なものはないものの、個々の定義に共通する概念として「不確実性」があり、また事象の結果と発生確率の積であるということから、結果の不確実性、確率の不確実性、また両方の不確実性があること、の 3 つの定義に大分することが出来た。しかし、背景で示したような、定義から外れてしまった使われ方もされていることが見受けられてた。そのような誤用が為されている場合はどのように使われているかを明らかにし、その場合に、どのような言葉で言い換えるべきかのガイドラインを示すことで、現時点でのリスクという言葉の使われ方を示すことを目的とする。

## 2. 方法

### 2.1. 文献調査方法

データの入手が容易で、様々な分野に関するリスクについてのデータが取れる媒体である雑誌に注目し、雑誌記事におけるリスクの調査を行った。

日本で発行されている週刊誌、隔週誌、月刊誌などの雑誌記事の見出しデータをアーカイブ化している Web サイト「雑誌の新聞」<sup>4)</sup>を利用し、リスクで検索をかけることにより雑誌記事のデータを取得した。具体的な雑誌名として、

一般週刊誌：週刊朝日、週刊新潮、週刊現代、AERA、フライデー、SPA!、サンデー毎日、週刊文春、週刊ポスト、ニューズウィーク、フラッシュ

経済誌：週刊東洋経済、日経ビジネス、週刊ダイヤモンド、週間エコノミスト

隔週誌：プレジデント、財界

女性誌：an・an、女性セブン、Hanako、女性自身  
が挙げられる。

用いた雑誌の発行された日の期間は、2018年4月9日～同10月9日までの半年間である。

フリーワード検索をかけた時に取得できる情報は、リスクという言葉が使われている雑誌記事の見出し、登場者(該当雑誌記事内で話題となっている主要な単語)、雑誌名、発行日である。なお、登場者にリスクという言葉が使われている雑誌記事も検索結果に含まれる。これらの情報を取得し、取得した全ての雑誌記事に対して、どのような場合に、どのような意味でリスクという言葉が使われているのかについて調査を行った。

## 2.2. 「リスク」の分類

リスクが使われている全ての雑誌記事に対して、どの分野に関連する記事で使われているか、どの定義に則って使われているか、の2つの観点からリスクの分類を行なった。リスクの分野に関しては、「リスク学辞典」(p35)記載の、工学的リスク、環境科学的リスク、生物学的・医学的リスク、心理学的リスク、経済学的リスク、政治学的リスクの6分野を用いて分類した。また、リスクの定義に関しては1章で述べた通り、①結果の不確実性について言及したもの、②事象の発生確率の不確実性に言及したもの、③結果と確率、のどちらの不確実性も内包しているもの、及び、上述の3つの定義に当てはまらないもの、の4パターンに分類した。前者の3パターンは「リスク学辞典」と「The Review of the Definition of Risk」におけるリスクの定義の共通概念に基づいているため妥当であると考えられる。

## 3. 結果・考察

### 3.1. 「リスク」の再定義

前述のリスクの定義を踏まえて、雑誌の新聞に記載のある記事を、どの定義に当てはまるか分類する作業を実施した。100記事ほど分類してみた段階で、定義内の「結果の程度の不確実性」に2つのパターンが存在するのではないか、という議論が出た。

それは、結果の「方向性」の不確実性、という考えである。例えば、株価であれば値上がりするか値下がりするかどうか、また記事の著者から見てある事象の結果がポジティブな結果になるかネガティブな結果になるか不確実である、というものである。これは、前述の「リスク学辞典」や「The Review

of the Definition of Risk」の定義にある「結果の程度の不確実性」に内包化されていたが、明文化されていない概念であると考えることが出来るだろう。これを踏まえて、再定義したリスクの分類について、以下に示す。

- A) 事象の発生する確率についての不確実性
- B) 事象による結果がどの方向に向かうかの不確実性
- C) 事象による結果がどの程度になるかの不確実性

A については「リスク」の対象となる事象が発生するかどうかという不確実性についてであり、B については発生した事象による影響、即ち結果がどうなるのかについての不確実性(例えば「資産変動のリスク」は資産の価格が上がるか下がるかという結果の方向性の不確実性)である。C については対象となる事象が発生した際にその結果がどの程度になるかわからないといった不確実性である。

B, C についてはベクトルのように考えるとわかりやすい。B は発生した事象の結果のベクトルの方向がどこに向くかわからないといった不確実性であり、C についてはそのベクトルの大きさがどれほどになるかわからないといった不確実性である。

この3つの定義の内、どのパターンに当てはまるかを改めて分類していくこととした。定義をいくつか内包したパターンも考えられる、例えば、A と B、即ち発生確率の不確実性と、結果の方向性の不確実性という2つの不確実性を内包している、といったものである。また、分類の便宜上、再定義する前と後でデータを分けている。

### 3.2. データの概観

記事の分野の割合について以下に示す。

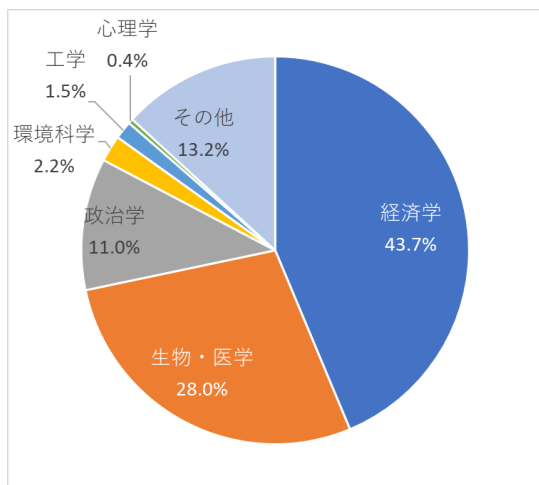


図1 データの分野 n=272

また、記事内のリスクの定義の割合について以下に示す。便宜上、前後半で分けている。その他がいずれも多いのは、タイトルや登場者だけでは当該記事でのリスクの使われ方を決めることが出来ず、記事本文も見つけることが出来なかった記事が複数存在していた・また専門用語が多かったことが理由として挙げられる。(3.5項)

また、定義を定める前後に関わらず、確率のみに言及したリスクが多いことも見受けられる。

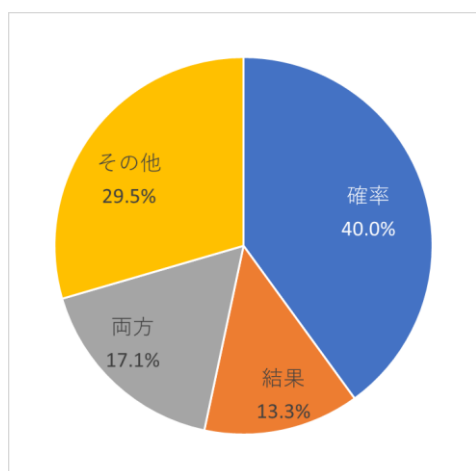


図2 リスクの定義(前半) n=105

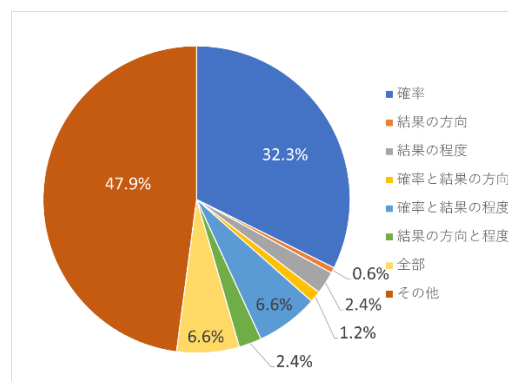


図3 リスクの定義(後半) n=167

### 3.3. 定義によって分類可能であった事例

得られた記事の中から前述した定義に当てはまった事例の一部、およびその分類理由を述べる。

(例1)「のれん代のリスク」

**記事題名：**時事深層／＜高くて安い買い物＞のれん代3兆円のリスクー武田薬品の買収（日経ビジネス2018年5月21日）

**登場者：**武田薬品工業の株価推移グラフ，シャイアー，減損リスク，IFRS，指標「EV/EBITDA倍率」，ファイザー

**記事要旨：**武田薬品工業がアイルランドの大手製薬会社シャイアーを買収することで合意した。シャイアーの買収に伴うのれん代は3兆円であり武田薬品は兆円規模の減損リスクを負うことになる。

**分類：**経済・確率の不確実性(A)

**分類理由：**分類理由を述べる前にのれん代，減損の説明をする。のれん代は企業が他の企業を買収する際に買収される企業の簿価と買収額の差額のことである。簡単に言ってしまうえば買収される企業の「ブランド代」のようなものである。減損とは先ほど説明したのれん代の価値が減ることである。例えば簿価1億円の企業を3億円で買収したときはのれん代が2億円になるが、数年後

にのれん代の価値が 1 億円しかないと判断された場合 1 億円の減損になる。従って記事中で用いられているリスクは 3 兆円のれん代が減損する可能性の不確実性について述べられているので分類は確率の不確実性になる。

(例 2)「リスクと批判」

**記事題名：**おきて破りのヒーローたち—偉大な先駆者はリスクと批判を恐れない(ニューズウィーク 2018 年 9 月 11 日)

**登場者：**ピーター・タスカ／野茂英雄，テニス・ジョン・マッケンロー，ロジャー・フェデラー，サッカー・ネイマール，本田圭佑，マラドーナ，大相撲・朝青龍，清原和博他

**記事要旨：**ウィリアム・ウェップ・エリスはフットボールの規則を無視し，初めてボールを抱えて走るという反則を犯した。これがきっかけでラグビーが誕生し，彼の名前はラグビーのワールドカップの優勝トロフィーに刻まれている。彼のように「ゲームチェンジャー」と呼ばれる選手はリスクを恐れないこと，批判にさらされがちなことが共通点として挙げられる。

**分類：**その他：結果の方向性の不確実性(B)

**分類理由：**本記事は，ウィリアム・ウェップ・エリスの例にもあるように，自身の行動の結果が良い方向に働くのか，それとも悪い方向に働くのかを恐れない選手たちについて書かれたものである。従って，ここで用いられている「リスク」の意味は結果の方向性の不確実性についてであると言える。

(例 3)「健康リスク」

**記事題名：**スリムなあなたも「隠れ肥満」にご注意—体脂肪は多い人がいる(ニューズウィーク 2018 年 8 月 7 日)

**登場者：**隠れ肥満(痩せ型肥満)，健康リス

ク，脳，体脂肪，筋肉，BMI，運動，糖尿病，癌，認知症

**記事要旨：**隠れ肥満(やせ型肥満)は BMI が正常であるが脂肪が多い状態である。隠れ肥満の人は通常の肥満の人と同様に，心臓疾患や 2 型糖尿病になる可能性が高いことが専門家から指摘されている。BMI が高くても BMI の低い隠れ肥満の人に比べて健康リスクが低い場合があることもあるので BMI を過信してはならない。

**分類：**医学・確率，及び結果の程度の不確実性(A,C)

**分類理由：**まず健康リスクとは，「人の健康に生じる障害，またはその発生頻度や重大性のこと」<sup>5)</sup>となっている。本記事においては隠れ肥満の人がその健康を害する発生頻度が隠れ肥満でない人に比べて高いこと，及びその害する程度(あるいはその害の重大性)がどの程度になるかわからないという不確実性に対して健康リスクを用いている。なお，結果の方向性については健康を害するという方向性で確定しているため結果の方向性の不確実性には当てはまらない。

### 3.4. 定義から外れた「リスク」の用例

以下では前述した「リスク」の定義に当てはまらなかったものの事例の分析を行う。

(例 1)「最大リスク」

**記事題名：**東京市場／自動車追加関税が最大リスク(週刊エコノミスト 2018 年 8 月 21 日)

**登場者：**藍澤証券・三井郁男／日経平均株価推移グラフ，米中貿易摩擦，IMF，アメリカ・トランプ大統領，ユンケル欧州委員長，東証株価指数，液化天然ガス

**記事要旨：**日米の貿易摩擦の行方が見通せ

ない状況の中、日本にとっては自動車追加関税が最大のリスク要因である。トランプ大統領は自動車への追加関税について当面の棚上げを示唆している。

**当てはまらない理由：**タイトルの最大リスクは記事要旨からみてもわかるように、自動車追加関税が生じる確率、あるいはそれによって生じる結果の方向性、程度についての不確実性を述べたものではない。従ってタイトルの最大リスクは前述したリスクの定義に当てはまらない。

**分析：**記事要旨にも述べてあるように自動車の追加関税は日本経済における最大のリスク要因であることがこの記事での主張であるからタイトルにおける最大リスクは最大のリスク要因等と記述されるべきである。

ではなぜこのように要因が省略されてしまったのかを考えた。原因の一つとして考えられるのは記事の題名欄の字数が限られていることであった。記事の筆者はその限られた字数の中で主張(この場合は自動車追加関税の行方の重要性)をセンセーショナルに読者にアピールする必要があるために最大リスクと記述されているのだと考えられる。逆に言えばリスクという単語はそれだけ危険性や不確実性を端的に訴える単語として一般向けに使われていることがわかった。

(例2)「ルピー安がリスク」

**記事題名：**ザ・マーケット／インド株ールピー安がリスク(週刊エコノミスト 2018年7月10日)

**登場者：**大和総研・児玉卓／SENSEX 指数推移グラフ、新興国通貨、インド・ルピー、インド準備銀行、ドル高圧力

**記事要旨：**インド経済は堅調な成長が維持

されているが新興国通貨安の影響や米国の利上げによるドル高によって外部状況は悪化している。これに対抗してインドは金利を上げる等している。しかし、このままドル高圧力が継続すれば金利上昇の継続をせざるを得なくなり、景気への負担が増すこと、ルピー安が進行することでインフレ圧力が増すことが懸念されている。

**当てはまらない理由：**この記事本文中にはリスクという単語は出てこない。従って判断対象はタイトルで用いられているリスクのみになる。タイトルにおいて「ルピー安がリスク」とリスクが使われている。それは定義を基に考えればルピー安が確率、結果の方向性、あるいは結果の程度の不確実性であることになるがルピー安そのものに不確実性があるとは言えない。従ってこれは定義に当てはまらない用例だと言える。

**分析：**記事要旨からわかるように筆者は堅調に成長するインド経済に迫る危機としてルピー安を位置付けている。従ってタイトルは「ルピー安による危険」等と記述されるべきである。

前事例と同様になぜこのような用例がされたのか分析しよう。原因として挙げられるのは前事例同様に読者の注意を引くためである。前事例では自動車の追加関税という棚上げされた危険の強調に最大リスクが用いられたが、本事例においては一見堅調な成長を見せるインド経済に潜むルピー安という危険を強調するためにリスクが用いられている。やはり一般向けメディアではリスクという単語は不確実性のみならず危険性の強調として用いられていることがわかった。

(例3)「ブラジル株のリスク」

**記事題名:** ザ・マーケット／ブラジル株—通貨安と政治がリスク(週刊エコノミスト 2018年9月18日)

**登場者:** 大和総研・児玉卓／ボベスパ指数推移グラフ, レアル, トルコ危機, ブラジル社会民主党・アルキミン, 緊縮財政, 大統領選挙

**記事要旨:** 財政赤字を抱えるブラジルの通貨下落圧は継続する可能性が高い。それにより景気拡大の起点となった家計消費の回復を終わらせるリスクがある。また, 大統領選挙の見通しが困難なことも通貨下落圧を支える要因の一つになっていると言える。

**当てはまらない理由:** 前事例と同じく「通貨安と政治がリスク」となっているため, このタイトルにおけるリスクは定義に依れば通貨安と政治が確率の不確実性, 結果の方向の不確実性, 結果の程度の不確実性のいずれかであるはずだが通貨安と政治そのものに不確実性があるとは言えない。従ってこれは定義に当てはまらない事例である。

**分析:** タイトルに「通貨安と政治がリスク」とあるように通貨安と政治の2要素があるのでそれぞれの分析を行う。まず通貨安については記事要旨にあるように, 通貨安は景気拡大の起点となった家計消費の回復が終わるリスク要因として挙げられている。リスク要因を単にリスクと記述するのは3.4(1)における最大リスクの用例と同様である。次に政治の部分进行分析する。大統領選挙の見通しが不確実なことは通貨下落を支える可能性を生じるもの, 即ち通貨下落悪化のリスクの一要因であると言える。従って政治もリスク要因の一つになっている。以上をまとめると, 通貨安も政治もそれぞ

れ対象の異なるリスク要因であると言える。

なぜ対象の異なる二つのリスク要因をまとめて同列に扱いリスクとしてタイトルに用いたのかを考える。対象の異なるリスク要因を同列にリスクとして扱っていることから一般向け情報メディアではリスク要因の対象が異なっても区別をしないことがわかる。つまり, 本研究における定義よりもリスクを広く, 曖昧なものとして用いていることがわかる。

### 3.5. 分類できなかったもの

上記のように, 定義に当てはまるもの, また定義から外れたものというように分類を進めていった。そこで定義の内外, といった議論が出来ないような記事がいくつかあったので, その内容について示す。

#### (1) 専門用語

主に金融分野の意味の定められている専門用語においては, 既に定義付けがされている為, 分類をしなかった。例えば, 「リスクオン」等である。

#### (2) タイトルと登場者だけでは意味合いを明確に出来なかったリスク

方法の項で述べた通り, 記事タイトルとその単語, また登場者という同記事に出た単語を元にその記事内のリスクの分類を行っていったが, それらの要素だけでは分類できないリスクも存在した。可能な限り図書館等で本文を実際に読んでその使われ方を分類していったが, 記事本文を読むことが出来なかったものについては, 分類をしていない。

## 4. まとめと展望

### 4.1. まとめ

「雑誌の新聞」に登場する雑誌における記事文中のリスクという言葉、既往研究とそこから膨らませた定義に則って分類を行った。

分類を進める中で、結果の不確実性は二つの要素をはらんでいることが見受けられた。それは従来定義されていた程度の不確実性と、結果の方向性の不確実性であった。そこで、リスクという言葉が内包する不確実性の要素として A)発生確率の不確実性、B)結果の程度の不確実性、C)結果の方向性の不確実性、の3パターン、あるいは複数を組み合わせたものに分類していった。

結果として、全体では発生確率の不確実性にのみ言及しているリスクが最も多いということが明らかになった。

また、見出しに登場するリスクを見て、誤用が疑われるようなもの・またそれだけでは分類できないものに関しては雑誌記事本文を参照して、実際の記事の中での使われ方を詳しく分析した。そうする中で本来定めている定義に則っていないものはいくつか見受けられた。そのパターンとして、

- ① 危険であることや、発生するかどうかの不確実であるということをよりキャッチーに伝える為にリスクという言葉を用いているもの（言い換え）
- ② 「リスク要因」「リスク因子」といった言葉を省略して「リスク」のみ記載した結果意味合いが不明瞭となってしまうもの（省略）
- ③ 対象の異なるリスクをまとめて言っている  
といったものが挙げられた。

### 4.2. 提言

4.1 に示した定義外のリスクの使われ方に関して、適正であると考えられる表現の例を示す。

- ① わざわざリスクという言葉を用いるのではなく、危険であることを言いたいならば「危険」、発生確率が不明瞭であることを言いたいならば「可能性」といった、その文脈に応じて適切な言葉を使用する。
- ② 文脈で言いたいことを明確にし、省略をしない。
- ③ ②と同様。

リスクという言葉は、何か危険であるとか、不安を煽るのに使いやすい言葉であるように本演習を通じて感じられた。所謂カタカナ語であることも、知的な視点を持ち合わせているということに合わせ、よりキャッチーに人々に響くのであろう。

情報の発信者はそのような効果を理解した上で、適切な場面でリスクという言葉を使用する必要があるであろうし、情報の受け手も、そのことを理解した上で、今目にしているリスクという言葉はどのような意味合いで使われているかを理解することが求められる。それはリスクに限らず、情報の発信者と受け手がいるという状況においては当てはまる事であり、双方がリテラシーを持ち合わせていることが求められる。

### 4.3. 今後の課題

雑誌の新聞に掲載のあった記事で、タイトルと登場者のみではリスクの定義を分類できなかったものの内、雑誌本文を参照で



きたものは少なかった。可能ならばすべての雑誌について本文を参照して、網羅するべきであった。

また、リスクの定義としての論拠になる論文をより多く調べたり、雑誌だけでなく例えばニュースや新聞記事の中での使われ方を調べることでより広い分野での使われ方を調査することが出来るであろう。将来的に継続して研究をすることで、その意味合いの移り変わりを辿ることもまた、出来るかもしれない。

#### 4.4. 参考文献

- 1) 日本リスク研究学会編(2006)「増補改訂版リスク学辞典」株式会社阪急コミュニケーションズ.
- 2) Aleksandar Sotic, Radenko Rajic : The Review of the definition of risk, Online Journal of Applied Knowledge Management, Vol.3, No.3, pp.17-26, 2015.
- 3) Twitter, <https://twitter.com>, 2018/10/1 アクセス
- 4) 雑誌の新聞, <https://www.zasshi.jp/pc/action.php> , 2018/10/10 アクセス
- 5) コトバンク , <https://kotobank.jp> 2018/10/11 アクセス